

## 平成 30 年 10 月の解説（府県天気予報）

### 【10 月の天候状況】

9 月終わりから 10 月上旬にかけて、台風第 24 号と第 25 号が相次いで日本付近に接近、通過しました。台風第 24 号の影響で、東日本で記録的な暴風となったほか、北日本太平洋側を中心に大雨となりました。また台風第 25 号の影響により、西日本や北海道地方を中心に大雨となり、九州や東北地方を中心に記録的な暴風となった所もありました。降水量は、沖縄・奄美では台風の影響で、北日本太平洋側では台風や低気圧の影響で、それぞれかなり多くなりました。一方、東日本では台風や湿った空気の影響を受けにくく、降水量は少なくなりました。気温は、北日本や東日本、西日本では、本州の南東海上で太平洋高気圧が強かったことや相次ぐ台風の接近、通過に伴って暖かい空気が流れ込んだため、かなり高くなりました。特に 6 日には新潟県三条で日最高気温 36.0 を観測し、10 月として歴代全国 1 位の高温となるなど、5 日から 7 日にかけては、東日本と西日本日本海側を中心に台風による暖かい空気の流入に加えてフェーン現象の影響で顕著な高温となりました。一方、沖縄・奄美では、北からの冷たい空気が流れ込みやすく、気温は低くなりました。

中旬は、北日本から西日本では天気は数日の周期で変化しましたが、北日本では高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。一方、西日本の南海上から東日本の南岸には前線が位置しやすく、前線に近かった東日本太平洋側では曇りや雨の日が多く、日照時間はかなり少なくなりました。沖縄・奄美でも、前線の影響を受けて曇りや雨の日が多く、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なくなりました。また、西日本と沖縄・奄美では、北から冷たい空気が流れ込みやすく、気温は低くなりました。

下旬は、29 日から 31 日にかけて北日本や東日本の日本海側では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨、山沿いの一部で雪となったほかは、全国的に高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。また、北日本や東日本では、26 日にかけて南から暖かい空気が流れ込みやすく、気温は北日本でかなり高く、東日本でも高くなりました。

月平均気温は、北日本でかなり高く、東日本で高かった一方、沖縄・奄美ではかなり低く、西日本は平年並でした。月降水量は、東日本太平洋側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった一方、北日本日本海側ではかなり多く、北日本太平洋側と沖縄・奄美で多く、東日本日本海側と西日本日本海側は平年並でした。月間日照時間は、北日本日本海側と西日本太平洋側が多かった一方、沖縄・奄美では少なく、北日本太平洋側と東日本、西日本日本海側は平年並でした。

### 【10 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年並の 85% で、明後日予報は例年値<sup>(注)</sup>より 2 ポイント高い 83% でした。地方別の適中率では、明日予報は北日本と四国地方、九州北部地方、九州南部地方、沖縄地方では例年値を上回りました。明後日予報は北日本と関東甲信地方、北陸地方、四国地方、九州北部地方、沖縄地方では例年値を上回りました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.3 で、すべての地方で例年値を下回りました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.1 で、すべての地方で例年値を下回りました。

(注) 例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【12 月の天気予報の利用にあたって】

12 月は本格的な雪の季節の始まりです。北日本では雨よりも雪となる日が次第に多くなりま

す。雪は、北日本だけでなく、東日本や西日本の山沿いや日本海側でも大雪となることがあります。

低気圧が発達しながら日本付近を通過して、強い冬型の気圧配置となるときには、北日本を中心に暴風や暴風雪、高波、大雪、路面の凍結等により、鉄道や航空機、船舶の運休や欠航、道路の交通障害といった交通機関への大きな影響、また、停電などの被害が発生するおそれもあります。各地の気象台で発表される最新の気象情報や注意報、警報等に留意し、事前の備えをお願いします。